

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【公開番号】特開 2020-121078 (P2020-121078A)
 【公開日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-032
 【出願番号】特願 2019-16552 (P2019-16552)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 16 日 (2020.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技機の外形を構成する枠手段と、
 所定の条件成立に基づき抽選を行う抽選手段と、
 前記抽選手段による抽選にて特定の結果が得られた場合に利益を付与する利益付与手段と、

前記抽選手段の抽選結果に基づき所定の表示手段を用いて演出を行う演出実行手段と、
 前記枠手段に設けられ、前記抽選の結果に基づき通常状態から特別動作状態へと動作可能な可動装飾手段と、を備え、

前記演出実行手段は、
 前記所定の表示手段において前記可動装飾手段を模した模擬画像を用いた動的表示を表示可能であり、該動的表示を表示した後に前記可動装飾手段が動作する特別可動演出を実行可能であり、

前記特別可動演出では、前記抽選手段による抽選が前記特定の結果である場合、遊技者操作の受付に応じて前記可動装飾手段が特別発光態様とされ、遊技者操作の受付に応じて前記特別発光態様とされているときに前記可動装飾手段が前記特別動作状態にあり、前記可動装飾手段の動作制御が開始された時点でも前記動的表示に用いられた前記模擬画像は前記所定の表示手段において非表示とされずに表示された状態にあり、

前記可動装飾手段の発光は前記通常状態でも前記特別動作状態でも遊技者が視認可能とされ、前記可動装飾手段の前記特別発光態様は、前記特別動作状態へと動作した前記可動装飾手段が該特別動作状態から前記通常状態へと戻るタイミングと異なるタイミングで終了可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

近年、装飾を形成する可動装飾部材を遊技機枠に設けた遊技機が知られている（例えば

、特許文献 1)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献 1】特開 2016 - 093655 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

このような遊技機では、液晶等の演出表示装置を視認する遊技者の視野の外側に可動装飾部材が位置するため可動装飾部材の演出の興趣を遊技者に十分に感じさせることができず、遊技興趣が低下してしまうという課題があった。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、遊技興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

[手段 1] に係る遊技機は、遊技機の外形を構成する枠手段と、所定の条件成立に基づき抽選を行う抽選手段と、前記抽選手段による抽選にて特定の結果が得られた場合に利益を付与する利益付与手段と、前記抽選手段の抽選結果に基づき所定の表示手段を用いて演出を行う演出実行手段と、前記枠手段に設けられ、前記抽選の結果に基づき通常状態から特別動作状態へと動作可能な可動装飾手段と、を備え、前記演出実行手段は、前記所定の表示手段において前記可動装飾手段を模した模擬画像を用いた動的表示を表示可能であり、該動的表示を表示した後に前記可動装飾手段が動作する特別可動演出を実行可能であり、前記特別可動演出では、前記抽選手段による抽選が前記特定の結果である場合、遊技者操作の受付に応じて前記可動装飾手段が特別発光態様とされ、遊技者操作の受付に応じて前記特別発光態様とされているときに前記可動装飾手段が前記特別動作状態にあり、前記可動装飾手段の動作制御が開始された時点でも前記動的表示に用いられた前記模擬画像は前記所定の表示手段において非表示とされずに表示された状態にあり、前記可動装飾手段の発光は前記通常状態でも前記特別動作状態でも遊技者が視認可能とされ、前記可動装飾手段の前記特別発光態様は、前記特別動作状態へと動作した前記可動装飾手段が該特別動作状態から前記通常状態へと戻るタイミングと異なるタイミングで終了可能であることを特徴とする遊技機である（例えば、段落 5581 ~ 5603、5797 ~ 5820 や図 523、図 524、図 555 等を参照）。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

本発明によれば、遊技興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することができる。